

実態に寄り添った支援の在り方

～券売機利用の指導を通して～

小出特別支援学校 小学部 山下拓也 小林哲士

実態

- 大人の支援を多く必要とする児童
- 生活経験が少なく電車の利用方法が分からない

目指す姿

- 自分の力を発揮して切符を買える姿
 - ・より少ない支援で券売機を操作し、電車の切符を買うことができる

手立ての工夫

●単元設定の工夫

- ・電車の乗り方について繰り返し練習する機会を設けた
- ・学習意欲を喚起するために、単元の終末に校外学習を設定
→校外学習「浦佐駅まで新幹線を見に行こう！」

●教材の工夫

- ・模擬券売機（iPadを活用）
- ・利用する駅と同様の環境構成
- ・券売機での切符購入の様子を動画で示す
- ・校外学習のしおりに券売機利用の手順表を掲載



●関わり方の工夫

- ・児童の実態把握のため太田のStageによる評価を実施
→実態別に関わり方を検討
- ・支援レベルを設定し段階的に実施
→過不足ない支援を行う



実践の概要

●授業の流れ

1. 切符の買い方動画を見る
2. 模擬券売機で1人ずつ切符購入の練習をする

【手順】

- ①運賃表を見て運賃を調べる（A児のみ）
 - ②「こども」ボタンを押す
 - ③タッチパネルから「100円」ボタンを探して押す
 - ④100円硬貨を硬貨投入口に入れる
3. 切符を駅員役教師に渡して模擬電車に乗る



●児童の実態と支援方法

A児：支援レベルD

（太田のStage：StageⅣ S-M：3歳8ヶ月）

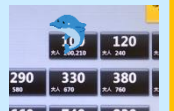
- ・手順表を用意
- ・手順表を見るよう促す教師の関わり



B児：支援レベルB～C

（太田のStage：StageⅢ-2 S-M：2歳9ヶ月）

- ・操作するボタン等の近くにキャラクターシール
- ・「1番、ウサギ」と声かけ



C児：支援レベルA

（太田のStage：StageⅠ-3 S-M：2歳1ヶ月）

- ・教師の身体ガイドで操作を体験
- ・穴あき軍手で刺激を制限



成果と課題

○過不足ない支援を行うことで、児童の“できる活動”が広がった

A児：手順表を見なくても正しい手順で券売機の操作ができた

B児：「こどもボタンを押す」、「100円硬貨を入れる」は支援なしでできた

C児：「100円硬貨を入れる」はできた

○支援レベルを定めたことで、児童の習熟度に伴って支援を弱めることができた

△実態把握のために、他の検査方法や教師の見取りを充実させる

△児童の実態に対して、どのような支援が有効か検討を継続する必要がある

